

副幹事報告

- 第2回次年度理事会開催
- 理事役員及び委員会構成表（案）について
- 主な行事予定について
- 合同ガバナー訪問について

委員会報告

- 青少年委員会 井村委員長
ひな祭り例会の案内

次回の例会

やまとまほろば RC との合同夜間例会

ホスト：やまとまほろば RC
於：橿原ロイヤルホテル

「欧米文化にはない 日本文化の花によせる情緒」



橿原市文化協会
会長 戸田 守亮様

皆様、明けましておめでとうございます。

さて、橿原市と姉妹都市提携を結んでおります中国・洛陽市の方々が昨年12月に来県し橿原市文化協会と交流を深めましたのでお話しさせていただきます。

昨年12月9日に史家珍洛陽市文物考古研究院長を団長とする第2次洛陽市文化財視察訪問団の方6名が橿原市を訪日され今井町や歴史に憩う橿原市博物館を視察され後、日本文化の話中国のお話をさせていただき有意義な時間を持つことが出来ました。奈良新聞他に掲載されておりますのでご覧下さい。洛陽市には伊河の兩岸にある石窟寺院の世界遺産である龍門石窟があり、本尊は私たちにもなじみのある奈良の大仏と同じ盧遮那仏です。機会があれば訪れて下さい。

今から丁度紅梅の時期になります。日本人は寒い冬を耐えて花を咲かせる紅梅に情緒を感じます。

耐えた者ほど やさしく生きる

しだれ紅梅 見て思う

春に先がけ 咲く一輪の

花の姿に 励まされ

たおやかに 凛々と

さだめの雪を 踏みしめる

(長山洋子 「さだめ雪」3番

作詞：星野哲郎 作曲：岡千秋)

また、最近寒くなってきましたが、夜に三日月を見られることもあると思います。空を仰いで三日月を見ただけでも1300年前に文学的な歌を残されています。

ふりさけて 三日月見れば 一目見し人の眉引き
思ほゆるかも

大伴家持（万葉集 巻6 994）

遠く振り仰いで三日月を見ると、一目見ただけのあの人のほっそりと美しい眉がおもわれてなりません。

これは、「初月（みかづき）」を詠代とする席で、女性歌人の大伴坂上郎女「月立てただ三日月の眉根搔き 日長く恋ひし君に逢へるかも」（万葉集 巻6 993）が詠んだものに応えた歌です。情がこもり艶のある美しい歌ですね。大伴坂上郎女の詠んだ眉根搔きとは当時は眉がかゆくなるのは愛する人に逢えるしと言われていたからです。

日本人の情緒は、日本の自然豊かな国土に関係します。日本列島約3000キロの中に、山の恵み、海の恵み、野の恵みがあります。このような豊かな国土というのは世界で日本だけなのです。そういうことが自然の文学的な心を養ってきたのではないかと思います。自然の恵みに神を見つめて日本の神道が生まれました。花は誰に見せようとか、誰に褒めてもらおうと一切考えていません。自然の中で、四季の中で年々歳々花を咲かせて散っていくのです。日本人は人生も同じであると心得ています。

吾妹子（あぎもこ）が 植ゑし梅の樹 見るごとに
こころむせつつ 涙し流る

大伴旅人（万葉集 巻3 453）

いとしい妻が植えた梅の樹を見るたびに、心がむせびないで涙が流れてくるよ。

この歌は、大伴旅人が昇進し大納言になり都に戻って詠ったものです。奈良の自宅についた時に庭の梅の樹に手を添えて「この梅の樹に逢うのも二年ぶりか。二年前は、この梅の樹を妻と一緒に見たものだ。今は亡き私の妻…」奈良から大宰府に移ったその直後に病で命を落とした妻との思い出があふれ、そんな気持ちを詠んだ歌です。

メーキャップ情報

*やまとまほろば RC

日時：2/4(木)12:00~12:30

場所：駅前グリーンビル 3F

大和信用金駅前別館